

事例紹介 2

# 子育て講座を受講した母親が「お母さん保育士」として活躍

## スカイハイツ幼稚園（神奈川県・私立）

スカイハイツ幼稚園では、園長先生の子育て講座を受講した卒園児や在園児の母親を、「お母さん保育士」として認定しています。「お母さん保育士」は、未就園の子どもと母親が遊びに訪れる園内の「すくすく広場」で活躍。母親が園の活動に参加することで、幼稚園との絆がより深まりました。

## 保護者が園で活動する機会を多くつくる

はじめに

スカイハイツ幼稚園では、保護者が園を訪れる機会がたくさんあります。活動に参加するうちに保護者は積極的に園の活動を楽しむようになるそうです。

### 参加するうちに保護者の意識が変わる

横浜市保土ヶ谷区にあるスカイハイツ幼稚園は、「子どもにとっても保護者にとっても楽しい幼稚園」をモットーとしています。これは、「幼児期の教育は家庭教育と密に連動しているため、子どもの教育だけではなく、保護者の教育に携わるのも、幼稚園の大切な役割である」という渡邊眞一園長先生の理念に基づいています。

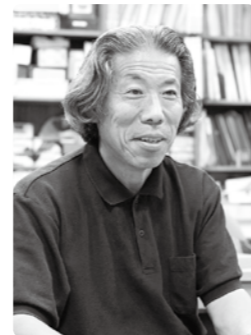
「保育者や子どもと一緒に、保護者も学び合いながら育ってほしいのです。そのため、保護者が園の活動に参加する機会をできるだけ多くもつとともに、集まりの前やあとで、保護者に向けて最近の園のことを話すなど、コミュニケーションも欠かさないようにしています」と園長先生は説明します。

園では、保護者会や保育参観、運

動会のほか、1年に1回、保護者が子どものクラスの先生のアシスタントをする機会も設けています。また、お父さん同士が交流し、園児との遊びの企画を立てる「スカイ papa の会」、卒園生のOBの交流会である「おやじの会」もあります。園では、お父さんたちが気軽に訪れる姿を日常的に見ることができます。

6年前からは、園長先生による「子育て講座」も開講。さらに、今年1月からは、「子育て講座」を受講した保護者を園が「お母さん保育士」に認定し、園での子育て支援に協力してもらうという試みをスタートさせました。

「最近では、人付き合いがあまり得意ではない保護者が増えてきた気がします。最初は、園での活動に積極的ではない保護者も多くいました。でも、あまり難しく考えなくてもいいと思います。多くの保護者は、園での教育活動に参加するうちに、だ



園長 渡邊眞一先生

んだん変わってきます。単純に、『参加してみると案外楽しかった』『子どもの様子も見られて、参加して得をした』と思ってもらえるようです。保護者が変われば子どもも変わります。『親育』は、結果的に子育て支援につながると、改めて実感しています」（園長先生）

今回は、園長先生による「子育て講座」と、お母さん保育士による「すくすく広場」の様子についてご紹介します。

## 母親を対象とした園長先生の「子育て講座」

実践 1

「子育て講座」では、育児や幼児教育について楽しく学べ、毎回参加者が多く集まります。出席すると、保育者のアシスタントを務める保育実習の機会が得られることも人気です。

### 子育てや幼児教育の理論をわかりやすく解説

今年で6年目になる「子育て講座」。卒園児と在園児の母親を対象に全10回からなり、5回以上出席すると保育士のアシスタントを1日務める保育実習の機会が得られます。また、3分の2以上出席すると、お母さん保育士として園から認定されます。

講座の内容は、渡邊園長先生の著書『新しい保育原理』（樹村房）を基にその内容をかみ砕いてわかりやすく解説します。この日は「幼稚園教育のねらいと目標」がテーマ。「体の丈夫な子どもになってほしい」「根気強く、何でもやり抜く生活力のある子どもになってほしい」など、園の教育目標が幼稚園教育要領とどのようにかわるかを伝えていきます。

園長先生は、卒園児との思い出や先日行われた運動会でのエピソード



ユーモアを交えながらわかりやすく解説する園長先生の話は、保護者に好評を博している。



講座に気軽に参加できるように、小さな子どもを連れてくることも可能。



園の理念や教育方針を伝えることにより、園と保護者が共通認識をもって、子どもと向き合うことができる。

などをユーモアを交えて話し、教室はその度に笑い声で包まれました。「まずは、学ぶことが楽しいと思ってもらうことが大事。また、時には、今の国の教育政策についても解説するなど、保護者の視野を広げられるような情報も提供しています。保護者の中には、6年間連続で受講しているかたもいます。子育てや幼児教

育についての知識をもったかたが増えるということは、園にとっても地域にとっても心強いこと。受講するうちに、もっと園の活動にかかわりたいと思ってくれる保護者も増えてきました。そのような保護者の活躍の場をもっと増やせればと考えています」（園長先生）

### 受講者の声

#### 杉山勝美さん（9歳児）

○子育て講座に参加して、今年で6年目です。私の息子はもう幼児期は過ぎましたが、講座を聞くことで今までの子育てを振り返ることができる、よい機会となっています。また、講座を終えて保育実習ができるのもいいですね。在園児と、まるで自分の子どもようにふれあえるのが楽しみで、気づけば、毎年受講しています。



#### 田中友子さん（9歳児・6歳児）

○講座では、ちょっとした子育てのポイントも教えてくれるので、それを聞くことで子育てに余裕が生まれたと思います。また、子育てに関連する政策についても話してくれるので、今までは自分のこととしてピンとこなかったニュースが気になるようになり、自分の視野が広がりました。



#### 兵頭美枝さん（9歳児・7歳児・6歳児）

○この講座は、小さい子どもを連れてきてもよく、敷居が低いところがいいと思います。ふだん、聞きたくてもここに聞いたらいいかわからない生の子育て情報を、先生の経験からわかりやすく教えてくれます。また、講座に参加することで、友だちが増えるのも魅力ですね。



※（）内は子どもの年齢

## 実践 2 お母さん保育士による「すくすく広場」

実践 2

未就園児の親子が遊びに訪れる「すくすく広場」。ここで活躍しているのが園から認定されたお母さん保育士です。未就園児の親と園を結ぶ架け橋の役割も担っています。

### お母さん保育士も参加者もともに学び合い成長できる場

「すくすく広場」とは、未就園の子どもと母親を対象としたもの。園の一室を開放し、火・水・木の午前中にお母さん保育士が主体となって、親子のふれあいの機会をサポートしています。

この前身となる取り組みは以前からありましたが、本格的にスタートしたのは横浜市子ども青少年局補助事業となった2009年の1月から。「子育て講座」を修了した26名のお母さん保育士が、「すくすく広場」に常時4人いられるようシフトを組んでいます。

「すくすく広場」の目的は、親子で遊ぶ場としてはもちろん、どうしても孤独になりがちな未就園児の母親が元気になる場として機能すること。子育てを経験してきたお母さん保育士に気軽に相談することで、「子育てってこれでいいんだ」と肩の力が抜けて気が楽になる母親も多

いと言います。一方、お母さん保育士にとっては、自分の子育てを振り返ることができる良い機会に。「お母さん保育士になって、保護者として成長させてもらえた」と実感する保護者も少なくないようです。

「すくすく広場」は、あくまでも親子が楽しむ場所で、お母さん保育士は親子を見守りながら必要なときだけサポートするというのが基本的

な考え方です。しかし、お母さん保育士から「もっと広場を盛り上げるためのしかけをしたい」という声が上がると、基本的な考え方を守りながらも、時々、人形劇や季節のイベントなども行うようになりました。この日は、人形劇や絵本の読み聞かせが行われ、子どもたちは興味津々で聞き入っていました。



この日は、「おおきなかぶ」の人形劇を行った。お母さん保育士は、抑揚をつけてしょうずに物語を進める。



「無理のない範囲でできることをする」のがお母さん保育士のモットー。井戸端会議のように気軽に子育てについて相談できる。

### 参加者の声

#### 市川宏美さん (3歳児)

◎実は、来年からこちらの園でお世話になると思っています。娘は最初、幼稚園に行くのをいやがっていたのですが、「すくすく広場」で、お母さん保育士に優しく遊んでもらい、最近は、幼稚園のイメージがよい方向に変わってきたようです。子どもにとっては、園の先生もお母さん保育士も同じ先生。「すくすく広場」で園の雰囲気に慣れることができてよかったです。私自身も、お母さん保育士から園の様子を教えられて、とても参考になりました。娘が入園したら、私もお母さん保育士になりたいと思っています。



### お母さん保育士の声

#### 三枝紀代美さん (5歳児)

◎お母さん保育士の活動を始めてから、園でのわが子の姿を見る機会が増え「今日はお外で遊んでいたね」など、家に帰ってから親子の会話が増えましたね。お母さん保育士として「すくすく広場」で活動し始めた当初は、どこまで訪れてくれた親子にかかわればいいのかかわからず、戸惑ったこともありましたが、「子育て講座」で、園の考え方も学んだので、それに沿ってできることをしています。最近は、お母さん保育士の意識がとても高まってきたように思います。親子ともども幼稚園に育ててもらっていると実感しています。



※ ( )内は子どもの年齢

## 子どもだけでなく親もサポートするのが園の役割

まとめ

園で大切にしているのは、「子どもだけ」「親だけ」ではなく、「親子」一緒に育っていくという観点です。親子関係を密にするための総合的なサポートをしています。

### 保護者の自主的な活動を園が後押し

保護者が園の教育活動に参加できる機会を多くもつスカイハイツ幼稚園。「活動が軌道にのるまでは保育者がかかわりますが、それ以降は、保護者が主体性をもって運営してくれます。このような機会を多くもつうちに、保護者が自主的に活動を行うという風土ができあがってきました」と渡邊園長先生は振り返ります。

「すくすく広場」を担当する後藤智子先生も、「お母さん保育士は本当に熱心。子どもにこんな教育を受けさせたいという思いをもっていると同時に、では、親はどうすべきかということをしっかり考えてくれています」と太鼓判を押します。

「すくすく広場」で活動しているお母さん保育士は、現在26人で、そのうちリーダーは5人。ふだんは、リーダーがほかのお母さん保育士の意見のとりまとめを行っています。しかし、ときには、園が舵取りを行うこともあります。

「例えば、以前、小さい子どもがいるために少ししか活動に参加できないお母さん保育士がいて、不平等だという意見が出ました。しかし、お母さん保育士は、小さな力を合わせて大きな力にしていきたいと思います。『私の力でよければ』という気持ちを大切にしたいという園の方針はしっかり示しました。園としての考えをき

ちんと伝えると、保護者も納得してくれます。このように、園としての方向性を間違わないようにマネジメントすることが大切だと思っています」(後藤先生)

なにか課題がもち上がったときは、話し合いの場をもち、解決していく。これにより、園と保護者との間の共通認識もさらに深まっています。現在、スタッフミーティングは学期に1回程度ですが、熱心な方が多いので、ミーティングの回数を増やしていきたいと考えているそうです。

現在の「すくすく広場」は、設立時のメンバーが継続的に活躍しており、欠員が出た際のみ、お母さん保育士に認定されているかたの中から募集するというかたちになっています。今後は、より多くのお母さん保育士が活躍できる場をつくりたいと考えているそうです。

後藤先生は、「子育ては本当に大変。親にとっては『こんな大変な日々がずっと続くのかな。だったら、園に任せてしまいたい』とってしまうこともあると思います。でも、幼



「すくすく広場」担当 後藤智子先生

児期は、親にとっても子どもにとってもかけがえのない大切な時期。できるだけ一緒にいて、関係を深めてほしいのです。だからこそ、園では、保護者に活動に多く参加してもらい、親子の関係がもっと密になるサポートをしたいと考えています」と強調します。

「園に来て保育者と子どもの様子を見ながら『こんなふうでいいんだ』とずっと保護者に感じてもらいたいですね。そして、自分の子どもだけではなく、園児や地域の子もたちを、みんなで大切に育てていける……そんな気持ちを共有できるように、一緒ががんばっていきたく思います」(後藤先生)

### スカイハイツ幼稚園



◎「生活体験と多様な遊び」を基本に、総合的な教育計画を立案、実行している。子育て支援にも力を入れており、預かり保育や4年保育も実施。学校法人初音丘学園では、幼稚園機能と保育所機能を兼ね備えた総合乳幼児教育施設も運営。

園長 渡邊眞一先生

所在地 〒240-0003 神奈川県横浜市保土ヶ谷区天王町2-50-1

園児数 150名(満3歳～5歳児)